

# バイオベンチャー2018

## 特集によせて

新城 雅子

2015年末、本誌93巻11号<sup>1)</sup>・12号<sup>2)</sup>で、「バイオベンチャー2015」という特集を組んだ。ベンチャー企業8社、ベンチャー企業・経営支援の2社の代表10名の方に、起業への想い・現在の奮闘ぶり・未来展望を語っていただいた。ご寄稿いただいた企業・組織は、(株)アーマリン近大、(株)インプラントイノベーションズ、(株)エンバイオ・ホールディングス、ちとせバイオエポリユーション、(株)バイオジェット、(株)ファーマフーズ、三菱UFJキャピタル(株)、アンジェスMG(株)[現、アンジェス(株)]、(株)セルシード、インタープロテイン(株)、ペプチドリーム(株)、Rainbow Bioscience, LLCであった。

各代表の熱い語り口に多くの読者が感銘を受けたことは、本誌のオンラインでの記事閲覧において、本特集記事が驚異的なアクセス数の伸びを示したことからも推察できる。若い読者の起業の想いに火がついたのであれば嬉しい。

バイオベンチャー特集第二弾への期待が高まってきた昨年、編集委員で推薦し、全員投票で決定した「編集委員が選んだ、話を伺いたいベンチャー企業7社」のご多忙を極めるベンチャー企業代表の方にご寄稿を依頼し、ご執筆を快諾いただいた。ご執筆のキーワードは前回と同じ、1) 技術・サービス、2) 起業のきっかけ、3) 事業のターニングポイント、4) 未来のビジョン、5) これからベンチャー企業を立ち上げる方へのメッセージである。以下に今回ご執筆いただいた7つの起業ストーリーの概要を紹介する。

まず、創薬系のバイオベンチャー企業である(株)SEEDSUPPLY代表の樽井直樹氏は、2017年に武田薬品工業(株)からアントレプレナーシップベンチャープログラム活用で独立を果たした。創業には、自分達の研究メソッドを世界で試したい、創薬の成功体験を活かしたい、という二つの思いがあった。創薬のターゲット分子への“結合”をコア技術に、「低分子」の能力に賭けた挑戦の幕は上がった。

続いて、オーピーバイオフィクトリー(株)代表の金本昭彦氏は、2006年に海洋生物資源を用いたシーズ探索、開発、活用を推進するため起業した。海洋生物観察を愛した少年時代の延長で、海洋調査会社に就職、色彩豊かで多様な沖縄の海に潜って環境アセスメントを生業とした。そこで猛毒クラゲの研究に参画したのがきっかけの起業である。海洋サンプル販売から始め、どのように自社で創薬研究開発を実施するに至ったのか興味深い。

「ペプチド」というキーワードに出会うことで創業を決意した創薬支援ベンチャー企業(株)ファンベップ代表の平井昭光氏。弁護士として大学、研究所、ベンチャー

企業での仕事を通じて、サイエンス分野で土地勘を得たという。そこから自身が大学院に入学しサイエンスを極めた後、多くのベンチャー企業の役員として経験を積み上げ起業に至った。現在は機能性ペプチド、抗体誘導ペプチドが期待の星だ。

次は、起業家・研究者・母・妻の四輪駆動型社長(株)ナノエッグの山口葉子氏。皮膚から薬が浸透可能なナノテクノロジーDDS(drug delivery system)技術を開発し、聖マリアンナ医科大学発のベンチャーとして順調なスタートを切った。数年後に突然迎えた死の谷をどのように乗り越えたのか。家族の「社長のママはカッコいい」に背中を押されて現在がある筆者の言葉に耳を傾けてみよう。

続いて、「コミュニケーションテクノロジー」を開発し続ける(株)リバネス(Leave a Nest)の2代表、丸幸弘氏、高橋修一郎氏の対談である。バイオバブルと言われた2002年に創業、バイオ系研究者15名が集まり小中高生向け実験教室を始めた。その後「超異分野交流会」を始め、技術シーズを持つベンチャーの卵の巣立ちに貢献し、現在では東南アジア、欧米まで活動範囲を広げている。今後の展開が楽しみだ。

続いて、「腸内デザイン」の技術確立を目指す(株)メタジェンは山形県鶴岡市にある大学発ベンチャーである。慶応義塾大学の福田真嗣氏が、上述のリバネス主催ビジネスプランコンテストに「トイレで健康状態をセンシングする」というアイデアで出場、リバネスの支援を受け、創業メンバー2名を集め、3名で起業した。特許出願したメタボロゲノミクスを駆使する腸内環境の個別化ヘルスケア開発の今後に目が離せない。

最後に、慶応義塾大学発ベンチャー、Spiber(株)の取締役、菅原潤一氏の登場である。著者と社長の関山和秀氏が学部時代に「クモ糸タンパク質の微生物生産」研究に取り組み、3年後に起業した。その背景には慶応義塾大学湘南藤沢キャンパス(SFC)で「バイオとITのダブルメジャー」を推奨された富田勝教授の存在があった。アントレプレナーシップ教育の整ったSFCで生まれたSpiber、同じく鶴岡の地で持続可能な社会の実現へ邁進中である。

今回の7つの起業ストーリーに触れ、大学で研究中の学生読者が自らの手で世界を変えようと挑戦を始めるきっかけになることを期待し、本特集をお届けする。

- 1) 新城雅子・小川亜希子：生物工学, **93**, 660 (2015). [https://www.sbj.or.jp/sbj/sbj\\_vol93\\_no11.html](https://www.sbj.or.jp/sbj/sbj_vol93_no11.html) (2018/7/25)
- 2) 新城雅子・小川亜希子：生物工学, **93**, 726 (2015). [https://www.sbj.or.jp/sbj/sbj\\_vol93\\_no12.html](https://www.sbj.or.jp/sbj/sbj_vol93_no12.html) (2018/7/25)